

魅力発信！えひめ農業NOW

令和2年 11 月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、11 月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

「魅力発信！えひめ農業NOW（11月分）」

東予地方局 地域農業育成室

■認定農業者が管内の先進事例を学ぶ

- 西条市認定農業者等連絡協議会小松支部（支部長：今井賢一、会員 38 人）では、農業経営の発展や会員の交流による知識・技術の研鑽を目的に先進事例の研修を行っている。
- 地域農業育成室は、11月20日に開かれた当研修を支援。12人が参加し、市内丹原町の山内果樹園（園主：農業指導士、山内茂弘）では柑橘施設栽培の経営ポイントを、輝り農園（園主：金光祐二）では当室が鳥獣害対策の実証ほを設置している果樹園地でのニホンザルによる被害対策を学んだ。
- 同組織は新型コロナウイルス感染を考慮して、例年県外へ視察研修していたところ、管内の篤農家の現地ほ場研修に変更したが、参加者からは「県外に行かなくても地元にも優良事例があり、参考になった」との意見が出るなど、地元を見直す良い機会となった。



柑橘施設栽培の経営ポイントを研修



サルやハクビシン等の侵入防止対策を研修

■地元レストランと連携し収穫体験を開催

- 地域農業育成室は、飲食店と連携し農産物や農業の魅力発信に取り組んでいる一次産業女子組織「たべとうみん」の活動を継続的に指導・支援している。
- レストラン側から、農産物の収穫体験と収穫した食材を使った試食会を開催したいとの要望があり、11月1日、西条市吉岡（たべとうみんメンバーほ場）で里芋収穫体験・フレンチ試食会を開催し、消費者6家族18人が参加した。
- 収穫体験では、メンバーが里芋の生育や掘り取り方法の説明を行い、鍬を使って掘り取りを指導した。その後、フレンチに変身した里芋料理に「家で食べるいつもの里芋とは違う」「こんな食べ方ができるのに驚いた」等の声があがった。
- 「たべとうみん」は、今後も地元飲食店と連携し、女性農業者の視点で地産地消の推進や農業のPRを行っていく。



収穫体験の様子



参加を呼び掛けるチラシ

■ 経営参画支援講座で若手農業者の経営能力向上を支援！

- 地域農業育成室は11月17日、若手女性農業者・新規就農者等13人を対象に、専門家による経営支援講座を開催した。
- 講座では、株式会社マルブンの代表取締役真鍋明氏を講師に招き、経営を継続的に発展させるためには、経営理念を持ちマーケティングにより消費者の困りごとや要望を発見し解決していくことが重要であることを学んだ。
- 12月には、第2回講座として先輩農業者ほ場での現地研修会と情報交換会を計画しており、当講座を通じて担い手育成を図っていく。



経営者としての在り方を学ぶ



参加者から熱心な質疑応答

■ 新たな顧客獲得に向け情報発信研修会を開催

- 一次産業女子組織「たべとうみん」は、メンバーが生産する農畜産物を詰め合わせた「旬菜ボックス」の販売を4月から開始し、12月からは西条市のふるさと納税返礼品に採用される予定。
- そこで、地域農業育成室は11月30日、「旬菜ボックス」の更なる顧客獲得に向けて情報発信研修会を開催し、チラシの作成・活用方法習得を支援した。
- 研修会では、西条市広報専門員として西条市の情報発信に取り組む日野藍氏を講師に招き、情報の伝え方、写真・文字のレイアウトなどについて学び、実際に作成しているPRチラシのリニューアルに取り組んだ。
- 今回作成したPRチラシは、マルシェやSNSなどでの顧客獲得に活用していく。



研修会の様子



リニューアル前のチラシ



研修会を通じて作成した修正(案)

■丹原高校生が花木「メラレウカ」の密閉挿しに成功

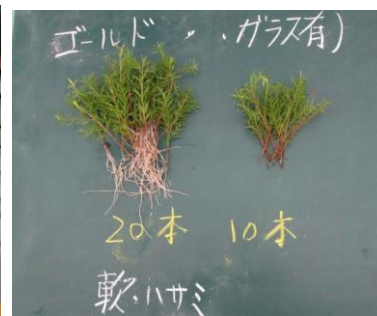
- 地域農業育成室は、花木「メラレウカ」の有効な挿し木の管理方法について、丹原高校園芸科学科2年生草花専攻班12人が取り組んでいる実証試験を支援している。
- 実証内容は、挿し木後、散水する慣行管理とガラス板被覆の密閉管理との発根状況や労働性の比較。
- 9月30日に挿し木を行い、11月25日に結果を確認。平均発根率は、慣行管理が41%、密閉管理が55%で、密閉管理の方が発根率が高く、根も太く、長く、成績が良かった。
- また、従来の方法はほぼ毎日水管理が必要だが、密閉管理は挿し木後に殺菌剤を一度散布するのみで、大幅に作業を軽減することができ、労働面でも密閉管理の有効性を実証できた。
- 今後、丹原高校では、品種、挿し穂の取り方、切り方による発根率の差異を分析し、農業クラブのプロジェクト発表大会で発表予定。



密閉管理の状況



発根状況の確認



発根状況

東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

■ さといも現地講習会で主産地の技術を確認

- 四国中央農業指導班は11月25日、J A うま特産部会宝利義博部会長を講師に招き、普及指導員野菜調査研究会員及びJ A 営農指導員ら15人を対象に現地講習会を開催。
- 今回の講習会は、四国中央地域における種芋の選び方、保存方法、栽培の工夫等に関する技術について意見を交換。
- 宝利部会長から、次年度の種子を確保するほ場で、種芋の貯蔵方法・選別・植付け時期や深さなど詳細な説明があった。
- 参加者は、掘り上げた株を持ち上げて観察し、種芋確保の実際を確認した。



講習会の様子

■ 「愛」あるブランド「やまじ丸」の学校給食紹介

- 四国中央農業指導班は11月16日、四国中央市やJ A うま、栄養士、生産者等と連携し、地元の「愛」あるブランド産品「やまじ丸」の認知度向上を目的に、土居中学校で「やまじ丸」給食メニュー提供日にその紹介を行った。
- 生徒からは「家でも食べたい」「どこで買えるのか教えてほしい」「やまじ丸を口に入れた時のふんわりした風味が最高」等の意見があった。
- 当班は今後も関係機関と連携し、学校給食等を通じて、地元での「やまじ丸」の認知度アップに取り組んでいく。



やまじ丸給食メニュー



生産者と生徒との交流の様子

■ 第16回四国中央市産業祭でふるさとの味等PR

- 四国中央農業指導班は11月21日～22日、四国中央市三島運動公園体育館で開催された同市産業祭において、パネルや女性組織による郷土料理の展示等で普及活動をPRした。
- 今年度はコロナウイルスの感染防止に配慮し、規模を縮小し展示のみの開催となったが、当日は約800人の参加があった。
- 今回、さといも・やまのいも・茶の振興、柑橘品種及び女性・青年組織の活動等についてパネル8枚と現物で紹介。
- コロナ禍で活動が制限される中、当班は今後とも機会を見つけて活動をPRしていく。



展示品・パネルによる活動紹介

東予地方局 産地戦略推進室

■ 絹かわなすの新規栽培希望者に対し講習会を開催

- 産地戦略推進室は11月20日に、JAえひめ未来と連携し、令和3年度の絹かわなす新規栽培希望者2戸（3人）を対象に講習会を開催した。
- JAえひめ未来から、局予算事業（H29～R元）で作成した動画栽培マニュアルをもとに絹かわなす栽培の年間の流れや10a当りの収支の目安を、また、産地戦略推進室からは、土づくりの重要性と定植前のは場準備などを説明。
- 希望者2戸は、約5aの栽培を予定し、12月中旬に栽培は場を決定する。今後、栽培上のポイントとなる作業時期に応じて個別指導を行う。
- なお、希望者1戸は、局予算事業で実施した栽培塾の参加者であり、令和3年度の栽培予定者は16戸と徐々に増加している。



講習会の状況

■ JAえひめ未来発足に伴いいちご部会員が相互交流

- 産地戦略推進室は、管内いちごの生産振興を目的として、栽培技術の向上や県育成品種の生産拡大を推進している。
- 11月1日にJA西条とJA新居浜市が合併しJAえひめ未来が発足したことに合わせ、当室はJAえひめ未来と連携し11月24日、いちご部会員の相互交流の促進を目的とした現地研修会を実施。西条市と新居浜市のは場において、今年の生育状況を確認しながら栽培に関する意見交換を行い、技術の高位平準化を後押しした。
- JAえひめ未来は県育成品種「あまおとめ」・「紅い雫」が主要品種となっていることから、継続して高品質多収栽培と作付拡大を推進していく。



現地研修会の様子

東予地方局今治支局 地域農業育成室

■甘平及びマルドリ方式の学習会の実施について

- 地域農業育成室は、11月2日に県立今治南高等学校と連携し、同校及び今治市菊間町のほ場で、同校園芸クリエイト科2年生（8人）を対象とした甘平及びマルドリ方式の学習会を実施した。
- この活動は、高校生の就農意識の向上を図り、将来の担い手育成と地域農業の振興につなげることを目的としたもの。生徒は、当室からの講義やほ場見学等を通じて、同校で栽培を行っている県オリジナル品種「甘平」の栽培方法や、次年度に新たな教育材料として導入を予定している「周年マルチ点滴かん水同時施肥法（通称「マルドリ方式）」を学んだ。
- なお、今回の活動は、11月2日（月）のNHK「ひめポン！」及びテレビ愛媛「EBC Live News」で放送され、日本農業新聞に11月5日（木）に掲載された。



普及指導員から「甘平」の講義



「マルドリ方式」の見学



活動動画
(YouTube)へ
(27秒 30.9MB)

■農業担い手育成及び魅力発信活動（2回目）「さといも収穫作業体験会」の実施について

- 地域農業育成室は、11月24日に県立今治南高等学校、今治CATV、JA等と連携し、今治市大西町の有限会社こんぱらで同校園芸クリエイト科1～3年生（18人）を対象に、さといもの収穫作業体験等を実施した。
- 生徒は、さといもの機械化一貫体系栽培の核となる大型収穫機による収穫体験を通じて、県オリジナル品種「愛媛農試V2号（伊予美人）」の特徴や法人経営における省力化栽培体系と高収益作物導入の必要性を学んだ。
- 当室は、今年度魅力発信活動を3回予定しており今回が2回目の活動。この企画を契機に高校生の就農意識の向上を図り、将来の担い手育成と地域農業の振興につなげる。
- なお、今回の活動は、11月24日にNHK「ひめポン！」、テレビ愛媛「EBC Live News」、あいテレビ「Nスタえひめ」で放送。12月11日から今治CATVの「しっとん？ 30'」で放送（約1か月のリピート放送）。愛媛新聞にも掲載予定。



大型収穫機による収穫



普及指導員から生徒への収穫指導



活動動画
(YouTube)へ
(34秒 38MB)

■広域連携による土着天敵の産地間受給(リレー)の実施

- 東予地方局と今治支局の両地域農業育成室は、11月10日、栽培終了間近のJAおちいまばりのハウスなすほ場から、栽培を開始したばかりのJA周桑冬春きゅうりほ場へ、アザミウマ類の土着天敵「タバコカスミカメ」の産地間受給(リレー)を実施した。
- 「タバコカスミカメ」の採集は、冬季にはハウス等で温存が必要であるが、今治地区には天敵温存ハウスがないため翌年の栽培初期に放飼ができない農家がある。
- そこで、両室で連携し、利用が普及しているJAおちいまばりナス部会とJA周桑冬春きゅうり部会の間で「タバコカスミカメ」を移し放飼することで、経費節約と省力を図った。
- 「タバコカスミカメ」は、冬季にきゅうりハウスで利用後、次年度には、なすハウスへ産地間受給(リレー)を実施する予定である。



土着天敵「タバコカスミカメ」



なすほ場からの「タバコカスミカメ」採集

■「経営支援」を考える農業講座を開催

- 地域農業育成室は、11月11日、青年農業者や女性農業者ら8人を対象に、若い農業者がWEBサイトを農業経営に活用できるよう、経営支援講座を開催した。
- 当日は、WEBデザイナーの竹森まりえ氏を講師に招き、WEBサイトの作成方法や運用方法を学んだ。現在はネット上で安価で容易にWEBサイトを作成することができ、集客やネット販売へつなげられることや、WEBサイトを立ち上げる時は目的やターゲットを決めることが重要であること、掲載する内容の事前準備、公開してからの留意点についても詳しく説明があった。
- 参加者は、講習後2班に分かれ、実際にWEB作成を実習し簡易にできることを実感した。
- 次回の経営支援講座では、WEBサイト活用に続き、オンラインの活用方法について学ぶ予定。



WEBサイトの作成方法について学ぶ

■今治地域の農業女子、PR動画を製作し新規就農希望者へ魅力を発信

- 地域農業育成室は、10月下旬から11月中旬にかけて、12月12日に開催される「オンライン農業体験ツアーin えひめ 2020」※に向けて、今治地域の一次産業女子ネットワーク・さくらひめメンバーによるPR動画を製作した。
- 同メンバーの園地等で作業している様子や経営内容の紹介を収録。また、同ツアー参加者へ向けてのメッセージを収録し、約1分30秒に編集した。
- 製作したPR動画は、ツアー当日の魅力発信コーナーで使用される予定。
- また、この動画製作は当地域を含め県下9か所で行われており、1月頃動画投稿サイト「You Tube」で一般公開される予定。



撮影風景



制作したPR動画



※「オンライン農業体験ツアーin えひめ 2020」：一次産業女子就業促進事業の一環で本県での就農を希望する首都圏女性を対象に、本県農業の魅力発信や就農相談を行う。

■次年度産水稲に向けた病害虫防除に関する講習会を実施

- 地域農業育成室は、11月25日から27日の3日間、JA協力のもと水稲の病害虫防除に関する講習会を実施し、5か所延べ149人の生産者が参加。
- 今年度、管内で特に被害の大きかった「トビイロウンカ」及び「スクミリンゴガイ」について、生態や防除方法を指導。
- 参加者からは、適切な防除の時期や方法について質問が多く上がった。
- 次年度に向けて、水稲栽培指針に掲載する農薬を変更するなどの対策を講じており、生産者が適切な防除を実施できるよう指導を継続する。



講習会の様子

今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

■今治市島しょ部新規就農者のかんきつ経営を支援

- しまなみ農業指導班は、11月16日と17日に担い手育成指導の一環で12人の新規就農者のかんきつ栽培状況を園地毎に調査した。
- これは、管内の新規参入者の多くが、開園に当たっての品種選定や作業効率の改善等の課題を抱えるケースがあることから実施したもの。
- 今回の調査で明らかになった課題を整理し、12月上旬に果樹を専門とする普及指導員による重点指導を行う計画である。

■岩城生活研究グループが小学生へ食農教育

- しまなみ農業指導班は、11月26日に上島町岩城の「でべそおぼちゃんの店」※で小学5年生8人を対象に、岩城生活研究グループ4人が実施した「レモン懐石」づくり指導を支援した。
- これは、地域農産物の魅力を次世代につなげる活動の一環として、女性グループが取り組む食農教育を支援したもの。
- 児童は、普段見慣れているレモンの果汁や皮が色々な料理に使われることを知り、地域農産物の魅力を再発見した。



レモン懐石



調理実習

※「でべそ」とは「出しゃばり」という意味。

東予地方局今治支局 産地戦略推進室

■しまなみ地域地元企業がオリーブ栽培を開始

- 産地戦略推進室は、県内初のオリーブ産地を育成するため、しまなみ地域で栽培に関心のある地元企業(株)瀬戸内園芸センターに対し、定植のポイント等の栽培指導に加え、経営継続補助金を活用した機械整備を働きかけた結果、省力化のための自走草刈り機を導入する見込みとなった。
- 同社は、11月上旬、今治市吉海町南浦において40aの耕作放棄地に、オリーブの苗木108本を定植した。今後5haまでオリーブ栽培を拡大する予定。
- 当室は、栽培候補地検討会(県、市、JA、地元NP O等により構成)で新たな栽培団地を選定し同社とマッチングするなど、大規模な企業的オリーブ経営が円滑に展開できるよう、引き続き支援する。



苗木を定植する様子

■ビブルナム・ティナス等花木を使ったフラワーアレンジメントコンテストの開催について

- 産地戦略推進室は、今治産花木・花きの地元での知名度向上や需要拡大を図るため、10月31日にJAおちいまばりと連携して、イオンモール今治新都市で岡山理科大学と今治明德短期大学の学生9人の参加を得て、フラワーアレンジメントコンテストを開催した。
- 午前中は学生自らがテーマを設定してアレンジメントに取り組み、午後からは当室が推進している花木の紹介や、花木生産者による実演、アレンジメント優秀者の表彰を行った。
- 大学生からは、「アレンジメントの実演が勉強になった」、「次回も参加したい、こうした機会をまた設けて欲しい」等積極的な意見があった。
- 学生が制作した作品は同店舗内で1週間展示を行い、買い物客等の花木を使ったアレンジメントの認知度向上に活用するとともに、花木購入場所の案内チラシを配置し、需要拡大を図った。



普及指導員による推進している花木の紹介



アレンジメントの展示の様子

■醸造用ぶどうの次年度栽培管理について協議

- 産地戦略推進室は11月25日、醸造用ぶどうの次年度栽培管理や指針作成のため、栽培技術検討会を開催した。
- 検討会には、醸造用ぶどう生産を行っている(株)大三島みんなのワイナリーの担当スタッフをはじめ、JAや果樹研究センター職員等10人が出席。
- ワイナリーと当室の担当者が、令和2年度の生育状況と栽培管理について報告した後、施肥・防除体系の見直しや土壌改良対策を中心に、活発な意見交換が行われた。
- また、次年度の栽培指針作成に当たり、ホウ素資材の施用や開花前のかん水管理等を盛り込むことを申し合わせた。



栽培検討会の様子

中予地方局 地域農業育成室

■伊予柑の超省力化栽培や災害復興園の早期成園化に向けて

- 地域農業育成室は11月10日、地方局予算「伊予柑を中心とした柑橘産地復興モデル確立事業」の一環で「第2回伊予柑の超省力化技術による中予地域の儲かる柑橘経営検討会」を開催し、関係者14人で超省力技術の実証について協議した。
- ドローンによる黒点病の防除では、散布時間の削減による省力効果はあったものの、高濃度少量散布のため散布ムラが見られた。今後、果実の黒点病発病状況を調査し、防除効果を総合的に検証する。
- また、高浜地区の災害復興園では、早期成園化対策（点滴かん水・液肥混入、防草シート敷設）の有効性や水源確保の必要性を確認し、今後、計画されている基盤整備園での導入を図る。



ドローン防除の実施報告



復興園早期成園化実証の中間報告（高浜）

■施設かんきつで天敵の効果を確認

- 地域農業育成室は、かんきつのハダニ類防除について、有効な薬剤が少ないことや、近年薬剤抵抗性が発達し、化学合成農薬の連用だけでは対応が困難になっていることから、今年度より天敵（スワルスキーカブリダニ）を利用した防除効果を実証している。
- 「愛媛果試第 28 号」の施設栽培で天敵による防除を実証した結果、スワルスキーカブリダニの放飼により、ハダニ類の防除回数が約 5 割削減でき、果実品質は慣行防除と同等以上であった。
- また、施設の周囲に光反射シートを展張することにより、アザミウマ類の防除にも効果があった。
- 生産者からは、「例年に比べ、ハダニ類の発生が少ない」などの声が聞かれ、天敵の導入が有効な技術であると期待されている。



ハダニ類の調査



光反射シートを展張した施設

■中島でかんきつ園の基盤整備を推進

- 地域農業育成室は 11 月 10 日、松山市中島で畑地帯総合整備事業を活用したかんきつ園の基盤整備について、地元農家への説明と予定農地の確認を行った。
- 現在、中島大浦、熊田、長師の 3 地区で既に地権者の同意を得て、約 5 ha の基盤整備が予定されているが、さらに優良園地を次世代に残していくため、各地区の人・農地プランの実質化会合を利用して事業の周知を図ったところ、新たに小浜、神浦、吉木、畑里、宇和間からも整備してほしいとの要望があった。
- 当室は、中島のかんきつ産地維持に向けて、温暖な島しょ部の気候を活かし、せとか、カラマンダリン、紅プリンセス等の高価格品種を中心とした営農計画策定を支援し、次世代へつなぐかんきつ産地づくりに取り組む。



長師地区での説明会



基盤整備について地元説明会

■道後地区の女性農業者が農業機械の安全を身につける

○地域農業育成室は10月26日、女性農業者の積極的な経営参画を図るため、道後地区の女性農業者5人を対象とした農業機械研修会を開催した。

○これは、7月の摘果講習会で「農業機械のメンテナンス等について知りたい」との声があったことから、企画したもの。

○会では、JAえひめ中央の職員が農業機械（草刈機、動噴、チェーンソー）の基本的な使い方の説明やメンテナンスを実演したほか、アシストスーツの試着体験を実施した。

○参加者からは、「効率の良い刈り方はあるのか」、「女性用のサイズはあるのか」等の質問があったほか、アシストスーツの体験では、「軽く感じる」、「引っ張られる感じがする」等の感想があった。

○今後は、かんきつの剪定講習会等を実施し、来年度に組織化を目指す。



実際に農業機械を見ながら説明を受ける女性農業者

■松山地区の郷土料理を学生に伝承

○地域農業育成室は11月11日、松山地区生活研究協議会と連携して、愛媛調理製菓専門学校の学生14人を対象に、郷土料理の伝承のため出前講座を実施した。

○これは、同協議会が日頃培ってきた加工の知識・技術を活かし、学生に地域農産物を使った調理や郷土料理などを伝え地産地消や食育活動の推進を図るもの。

○当日は、しょうゆ餅や庄大根を使った口金汁などの郷土料理を紹介し、調理や試食を行った。学生からは、「普段の授業では学ぶことができないような料理を学べた」、「松山の郷土料理を経験出来てよかった」などの感想を聞くことができ、食に対するありがたさなどを学生に伝えることができた。



会員が調理技術の伝承を行った

■農福連携による「さといも」の調製作業体験の実施

○地域農業育成室は11月6日、農福連携を推進するため、東温市でJAえひめ中央等と連携し、福祉事業所利用者によるさといもの調製作業体験を実施した。

○当日は、福祉事業所スタッフ2人、施設利用者6人が参加し、生産農家の指導のもと、掘り起こされたさといもの塊を大まかに分割する係や1個ずつに分割する係、選別してコンテナに入れる係に分かれて作業体験を行った。

○今回は約1時間の作業体験であったが、スムーズに作業を行うことができたことから、契約に向けて具体的な内容を協議することとなった。

■障がい者施設スタッフを対象に農福連携を推進

- 地域農業育成室は11月30日、農福連携を推進するため、松山市で障がい者施設スタッフ等20人を対象に、研修会を開催した。
- 当日は、施設内就労で農業生産に取り組む「ひだまり就労支援」のスタッフ三谷みはる氏から、同施設の障がい者の就労機会を確保する取組の経緯や現在の栽培状況などを学び、参加者は、今後の面積拡大の予定や販売方法について質問するなど施設間での意見交換等もあった。



ほ場で栽培状況を視察

中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

■集落営農組織がスクミリンゴガイ対策を学ぶ

- 伊予農業指導班は11月20日、集落営農組織の農家50人を対象に水稻の害虫「スクミリンゴガイ」の対策について研修会を開催した。
- 管内では、田植え直後からスクミリンゴガイによる苗の食害が大きな問題となっており、毎年、被害が拡大している。
- 会では、スクミリンゴガイ研究の第一人者である、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の松倉啓一郎上級研究員より、米麦の二毛作地帯における対策として麦作前の細やかな耕うんや浅水管理、水口へのネット設置等により、密度を低下させ大貝の活動を抑制することが重要であるとアドバイスがあり、参加した農家からも多くの質問が飛び交い、実りある研修会となった。
- 当室は、来年度スクミリンゴガイ対策の実証ほを設け、被害の軽減に取り組む。



屋内研修の様子



ほ場での指導の様子

■地域の郷土料理等の技術を動画撮影。配信に向け撮影進む！

- 伊予農業指導班は11月9日、伊予地区生活研究協議会と連携し、新たな産品である“青パパイヤ”を使った料理講習及び動画撮影を行った。
- これは、えひめ食文化保存継承活動の一環で、昔から伝わる郷土料理、伝統食材等を広く伝承するため、SNSで情報を積極的に発信していこうと、調理方法を動画撮影しているもので、現在までに4メニューの動画を撮影した。
- 今後、1メニューを追加撮影し、来年2月頃に第1回目の動画配信を行う。
- 同会員からは、「会員は高齢化してきているので、出来るだけ早く技術伝承をしていきたい」「スマートフォンなどが普及していく中で、動画で技術伝承をすることは大いに意義がある」と声があがるなど、取組に意欲的であった。



動画撮影の一場面
(青パパイヤのカット)

■くくり罠講習を開催、イノシシから農作物を守れ！

○伊予農業指導班は11月5日、伊予市中山町で「鳥獣管理専門員育成事業」の一環で、佐礼谷猟友会10人を対象に、イノシシ捕獲技術の向上を目的に罠の講習会を開催した。

○会では、講師の北条猟友会からくくり罠の作成方法や設置方法のコツなどについて学んだ。受講者からは、「罠の仕組みが分かり、掛け方やコツを理解できた」といった声が聞かれた。

○地域では、作成した罠でイノシシを捕獲するなど実績も上がりつつあることから、狩猟に対するモチベーションが向上している。

○当班は、捕獲について継続した指導を行うとともに、今後、捕獲したイノシシの処理方法を学ぶために解体場の視察を行うなど、鳥獣対策意識の更なる醸成を図ることとしている。



くくり罠講習会の様子

■茨城県で栗栽培及び加工技術を調査

○伊予農業指導班は10月26～27日、地方局予算「中山栗産地力向上促進事業」の一環で、全国トップレベルの栗産地である茨城県笠間市で先進地調査を行った。

○同市では、大規模な栗園を所有する農家が多く、省力化技術に重点を置いた栽培が行われており、特にトラクタを用いて草やイガをすき込む土づくりなど中山地区でも活用可能な技術を多く学ぶことができた。

○また、品種ごとの集荷体制や加工技術など全国トップレベル産地ならではの高度な技術や体制づくりに触れることができた。

○当室は、調査内容を栽培農家へ周知し、生産安定を図るとともに加工商品の開発支援を行う。

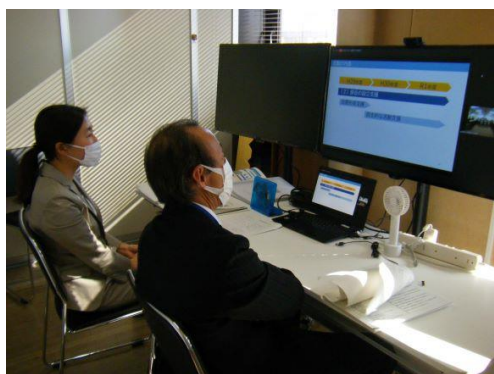


現地農家と意見交換する様子

中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

■普及活動高度化全国大会で全国農業改良普及支援協会長賞を受賞！

- 久万高原農業指導班は11月19日、「第8回農業普及活動高度化全国研究大会」に県代表としてオンライン参加し、「地域の力を結集してトマト産地の復活を目指す～新規栽培者などの声を活かした多角的な普及活動～」と題する取組を発表。
- 停滞傾向に陥ったトマト産地のV字回復を実現するために、人材育成と技術指導が有機的に機能する指導体制を組み、新規就農者の確保・育成と生産性の向上に取り組んでおり、その活動が高く評価され、「全国農業改良普及支援協会長賞」を受賞した。
- 当班は、高品質で安定した出荷によりトマトブランドの維持を図るとともに、新たな技術課題に対しても果敢に取り組み「10億円トマト産地の復活！」を目指す。



県庁通信ルームでのリモート発表



オンラインで審査員の質問に答える

■青年農業者組織がみかん収穫支援で交流

- 久万高原農業指導班は11月17日、久万高原町、八幡浜支局地域農業育成室と連携し、上浮穴地区青年農業者連絡協議会の会員等13人による八幡浜地区青年農業者のみかん園地での収穫支援に取り組んだ。
- これは、コロナ禍の影響で南予地域のみかん収穫時の労働力が不足していることから、県青年農業者連絡協議会の要請を受けて、えひめお手伝いプロジェクトの有償ボランティアとして実施したもの。
- 当日は、3班に分かれ、互いの地域や栽培作物等について情報交換を行いながらみかんを収穫した。
- 受入れ側の青年農業者からは、「普段から農作業をしているので手際もよく、とても助かった」、ボランティアの青年農業者からは「初めてみかん収穫をし、良い経験になった」との声が聞かれ、青年農業者の絆が深まった。



共に作業を行う青年農業者

■久万高原町で「人・農地プラン」策定（実質化）を推進

- 久万高原農業指導班は、「人・農地プラン」を推進するため10月から各集落で座談会を開催し、担い手への農地の集積など今後の営農の在り方について提案している。
- 10月24日の直瀬永子集落での座談会では、同集落協定組織内に「担い手班」（8人）を設置し、集落内の後継者がいない農地を担っていく方針を決定するとともに、活動周知用チラシを作成し、地権者に配布することになった。
- 当班は、「人・農地プラン」の取組事例を他集落にも紹介し、実質化に向けた支援を続けていく予定。



永子集落での集落説明会

私たちが永子の農業の担い手(借り手)です。

大野 友隆^{代表} 川島 正延^{班長} 奈良原 昌夫^{班員} 小川 文雄^{班員}
大野 秀樹^{班員} 小川 勝政^{班員} 徳永 武夫^{班員} 小倉 孝広^{班員}

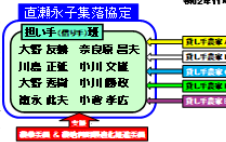


直瀬永子集落協定 担い手班 よろしくお願ひします！

★永子に所有する農地の借り手を探している方は、代表(大野友隆)または、担い手班員にご相談ください。(大野：090-1577-0169)

「直瀬永子集落協定(中山間活動協定)」からのお知らせ

永子では、2000年から中山間地域等直接支払活動に取り組み、今年はインシテ被害対策として集落全体に防護柵設置するなど集落が一丸となり地域の農業を守ってきました。活動開始から21年を迎えたのを機会に、稲作などを請負る借り手農家のグループ「**担い手班**」を発足しました。今後、稲作(農業)をやめる方、貸していた農地が戻り、新しい借り手を探さなければならなくなったなど、借り手を探している方は、ご相談下さい。担い手班で話し合い、借り手を決めます。



担い手班結成の周知用チラシ

中予地方局 産地戦略推進室

■管内初の高冷地パクチーの夏季出荷が終了

- 産地戦略推進室は11月18日、広田地区パクチー出荷反省会を開催し、今年度生産者2人と栽培希望者2人が参加した。
- これは、今年度から生産を始めた広田地区での夏季パクチー出荷が10月17日で終了したことから、生産者拡大に向け、JAえひめ中央に働きかけ実現したものの。
- 会では、同JAから夏季の販売実績や市場状況を、当室から夏季栽培方法について説明した後、今夏栽培した反省点、改善点等を協議した。
- 今年はコロナ禍による価格低迷の中でも10万円/a程度の販売額があったことから、来年は栽培管理を徹底し20万円/aの販売額を目指すこととなった。
- 当室は、夏季生産量を確保し、管内リレー出荷を定着させ栽培面積の拡大を目指す。



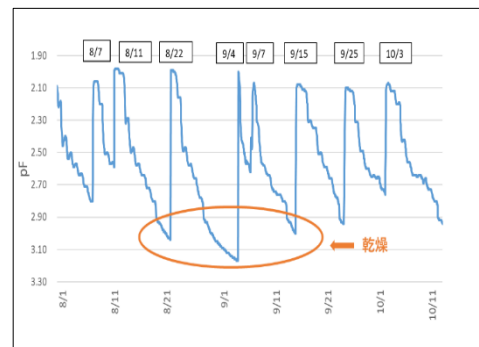
出荷実績に見入る生産者

■「甘平」の裂果と土壌水分の調査結果を取りまとめ

- 産地戦略推進室は、「甘平」の裂果対策として、管内4ヶ所に設置した調査園の地下30cmに土壌水分センサーを設置し、8～10月にかけて定点調査を実施するとともに、生産者からかん水方法について聞き取りを行い、裂果との関連について結果を取りまとめた。
- 本年は、梅雨明け後の高温・少雨等の影響で裂果が発生しやすい気象であったが、比較的裂果の少ない園地では定期的にかん水が行われており、土壌水分が一定以上に維持されていたのに対し、裂果率の高かった園地では土壌の乾湿の差が大きく、園地によってかん水の頻度や量の見直しを行う必要があることを確認した。
- 生産者からは、「土壌水分が維持できていたので、来年も同じかん水方法を継続する」、「来年はかん水の頻度や方法などを検討したい」等の話があり、当室では今回得られた土壌水分のデータを次年度のかん水管理の指導に反映させるとともに、土壌水分と裂果の関係についてさらに調査を進める。



調査園に設置した土壌水分センサー



裂果率が高い調査園の土壌水分 (pF) の推移

南予地方局 地域農業育成室

■代かき時の濁水軽減に石膏資材の有効性を確認

○地域農業育成室は11月12日、南予地方局で、広見川等農業排水対策協議会と連携し、4月～5月にかけて実施した広見川流域での濁水パトロールの結果や当室を中心に実施した石膏資材を投入した濁水軽減実証結果の報告中間検討会を実施した。

○濁水パトロールの結果からは、4月中旬と5月下旬ともに同水準の濁りが発生し、4月の濁りは四万十川本流に達していた。

○石膏資材を用いた実証結果では、三間、鬼北、松野の3地区で代かき作業の2日後には濁水の軽減効果が確認された。

○当室は、石膏資材の活用による濁水軽減の実証成果を集落営農法人に周知し、点から面へ普及するよう各種事業の活用や行政機関と連携した取組を展開する。



対照区 散布区 用水
石膏資材散布1日経過後の水質

■濁水軽減米に付加価値を！愛媛・高知の関係者が意見交換

○地域農業育成室は11月27日、広見川等農業排水対策協議会と連携し、農業濁水防止に向けた高知県との意見交換会を高知県四万十市の西土佐総合支所で実施し、17人が出席した。

○この会は、濁水防止に係る両県の取組について意見交換し、効果的な活動にするため昨年度から始まったもので、当協議会からは、濁水防止パトロールや石膏資材投入による濁水軽減の有効性について情報を提供した。

○意見交換では、次年度から、濁水パトロールを両県で同時期に実施し、濁水の状況を同時に広域で把握する取組や、濁水軽減に取り組んだ米に付加価値を付ける等の提案があり、各対策について、両県が足並みを揃えることを申し合わせた。

○当室は引き続き、農業者への「浅水代かき」「止水板」の普及啓発や石膏資材の実証成果を集落営農法人等に働きかけ、点から面への普及等、濁水軽減対策に取り組む。



情報交換会の状況



付加価値を付けた四万十農法米

■加工用果物の生産実績等について情報交換

○地域農業育成室は11月26日、「第3回源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会」を開催し、収穫を終えた4品目（くり・かき・びわ・もも）の出荷状況や生産現場での課題、(株)源吉兆庵から見た出荷物の評価、今度の対応策等を中心に情報交換を実施。

○その中で、「くり」は、(株)源吉兆庵から今年度と同様に20t程度の出荷を続けて欲しいとの要望があり、「もも」は排水不良園対策、「びわ」は袋掛け等の作業性の改善、「かき」は早期収穫・追熟出荷の拡大や高齢化している生産者の生産意欲向上対策等について検討した。

○当室は、良質な加工用果物を将来にわたって安定的に供給するため、常に関係機関・団体と連携し収益性の向上や高齢化など生産者が抱える課題の解決に取り組む。



源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会

■第3回紅プリンセス産地化促進協議会を開催

○地域農業育成室は、令和2年度の局予算「紅プリンセス産地化促進事業」で、復興のシンボルとして紅プリンセスの産地化に向けた取組を行っており、11月30日、「第3回紅プリンセス産地化促進協議会」を開催し、事業の進捗状況、紅プリンセスの生育状況、今後の活動計画等について協議した。

○協議会では、当室から、紅プリンセスの生育は良好で、愛媛果試第28号（紅まどんな）や甘平と比べ前半は緩やかに肥大する特徴があること、2回実施した栽培研究会に参加した若手農業者の紅プリンセスに対する関心の高さや栽培に取り組みたい意向も多数聞かれたことを報告した。

○また、3月に計画されている「紅プリンセス魅力度向上セミナー」の開催については、リモートによる開催が提案され、今後、実施に向け、関係機関で連携して対応することとなった。

○当室は、引き続きみかん研究所と連携して生育調査を行うなど、紅プリンセスの産地化に取り組む。



協議会の様子

南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

■管内果樹の先進的なモデル実証ほを学ぶ

- 鬼北農業指導班は11月6日、松野町・鬼北町と連携した管内優良事例研修を開催し、鬼北地区認定農業者等連絡協議会員ら24人が参加した。
- 当日は、松野町の「キウイフルーツ花粉ビジネス」に取り組むハウスや(株)源吉兆庵に提供する「加工用桃の排水対策園地」、鬼北町の「伐採林地を利用した栗の先進的大規模園地」や夏場も涼しい「媛っ子地鶏」の山間立地鶏舎、福祉施設が製造・販売している堆肥場を視察した。
- 参加者からは、「管内で新たな取組が多いことに驚いた」との声があり、特に、キウイフルーツ花粉ビジネスの花粉採取方法や、加工用桃園地の排水対策の施工方法等に関心が高く、多くの質問があった。
- 当班は、先進的な果樹のモデル実証を足掛かりに、各品目の規模拡大に取り組む。



苗木育成中のキウイフルーツハウス研修



加工用桃園の生育状況視察

■キウイフルーツ花粉ビジネスの確立：花粉の検定についての研修会を開催

- 鬼北農業指導班は11月19日、松野町で取り組んでいる「キウイフルーツ花粉ビジネス」に係る花粉の収集・精製・出荷作業の理解促進を図ることを目的に、果樹研究センターで研修会を開催し、キウイ花粉生産農家3戸、松野町、(株)松野町農林公社の8人が参加した。
- 果樹研究センターの職員から発芽検定・キウイフルーツかいよう病検定の手順について指導を受けるとともに、実際に検定作業を体験した。
- 参加者からは、「実際にやってみることで検定の流れが良く分かった」「検定に必要な試薬はどこで入手するのか」等の質問があり、商品となる花粉の品質に対する認識を深めた。
- 当班は、2年後の本格的な花粉の精製・出荷に向け、引き続き研修会を開催し、生産や精製技術の向上を図る。



発芽検定の工程を研修



キウイフルーツかいよう病検定

■ 鬼のまちの新たな特産品開発に向けて ～食用ほおずきの新たな活用方法の検討～

- 鬼北農業指導班は11月17日、農山漁村男女共同参画強化事業の一環で、鬼北地区生活研究協議会員10人を対象に、農業大学校と連携して「特産品開発講座」を開催した。
- これは、鬼北地域の特産品として栽培に取り組んでいる「食用ほおずき」の新たな活用方法を研究し、地域食材としての定着と農村女性活動の活性化を図るもので、㈱フードスタイルの近藤路子氏を講師として、「食用ほおずき」の食材としての特徴紹介や加工研修を実施した。
- 参加者からは、「初めて食べたが、色鮮やかで見栄えも良く、大人の味でおいしい」「早速、明日の配食に活用したい」等の声があった。
- 当班は、「鬼からし」や地域の特産品である「桃」と組み合わせた「鬼のモスタルダ(イタリアの保存食)」等へ発展させた加工研修を行い、鬼北地域ならではの特産品開発を目指す。



試作した食用ほおずき料理



食用ほおずきを用いたモスタルダ(保存食)

■ 農福連携で収穫最盛期のゆずのマッチングを実施

- 鬼北農業指導班は11月6日、農福連携ビジネス推進事業の一環で、松野町の就労支援B型サービス施設「よつば就労支援事業所」とJAえひめ南鬼北営農センター及び同JAゆず部会員とのマッチングを行い、同施設の障がい者5人がゆずの荷受けと収穫作業体験を行った。
- これは、鬼北管内で基幹品目のゆずの栽培者・生産量とも年々増加しているが、高齢化等の影響から、収穫最盛期の11～12月の収穫作業やJAの荷受け作業の雇用確保が難しくなっていることから、障がい者の就労と雇用確保の両面から農福連携に取り組んだもの。
- この体験をきっかけに、JAでは、ゆず荷受け期間中に2人を引き続き雇用することとし、松野町のゆず農家も12月上旬まで3人を雇用することになった。
- 当班は、障がい者の就労や生きがいをづくりの場を生み出すとともに、高齢化が進む当地域の新たな働き手の確保に繋げるため、引き続き、管内の福祉施設と農家・組織とのマッチングを行う。



農家の現場園地でのゆずの選果作業



JAにおけるゆずの荷受け作業

南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

■柑橘の加工販売について意識啓発

- 愛南農業指導班は10月30日、柑橘の加工販売の取組等を学ぶため、鬼北町の柑橘搾汁施設等で先進事例調査を実施し、南宇和地区営農指導連絡推進会議果樹部会員20人が参加した。
- 当日は、施設の担当者から、加工販売の現状や販売戦略、搾汁後の柑橘果皮を活用した堆肥の製造工程等について学んだ。
- 参加者からは、「柑橘の活用や搾汁方法など参考になった」「果皮の堆肥化は、廃棄物の有効利用に繋がりが良い取組だと感じた」との意見があった。
- 当班は、今後も関係機関と連携しながら、柑橘の加工販売の取組を進める。



搾汁施設での説明



加工前の柑橘



堆肥製造の状況

■マーマレードとジビエの新たなレシピ開発！

- 愛南農業指導班は11月19日、地域特産品の新たな活用方法を目的に、農家女性で組織する「愛・レディースネット」を対象とした、愛南地区女性経営参画支援講座を開催し、7人が参加した。
- 当日は、講師に(株)フードスタイルの近藤路子氏を招き、河内晩柑のマーマレードを活用した家庭料理や、ジビエ（猪肉）を使った巻きずしを試作し、地元食材を活用した新たなレシピづくりにチャレンジした。
- 参加者からは「普段の料理にマーマレードを使うことが無いので参考になった」「猪肉の活用方法が広がった」との声が聞かれた。
- 当班は引き続き、地域特産品を活用した新たな商品開発や消費拡大に取り組む。



研修会の様子

■有害獣の被害を減らそう！集落パトロールの実施

- 愛南農業指導班は11月1日、令和2年度の狩猟解禁日にあわせてイノシシ、シカ並びにサルによる農作物被害防止の集落パトロールを猟友会員と連携し実施した。
- 重点地区である和口集落では、ワイヤーメッシュ柵の設置状況や効果を確認するとともに、未設置園でのニホンジカによる農作物・農地等への被害状況や侵入場所等を確認し、今後の防止対策と捕獲方法について意見交換した。
- その結果、ワイヤーメッシュ柵未設置園では、計画的な設置と捕獲を推進し、攻守一体となった集落づくりを目指していくこととなった。
- 当班は、町や猟友会と連携して、今後も鳥獣被害の軽減に向けて捕獲活動を支援する。



和口集落でのパトロール

■南宇和高校生が農業法人で農業の魅力を経験

- 愛南農業指導班は11月10日、愛南町農業支援センターと連携して新規就農候補者研修会を(株)味彩(西予市城川町魚成)で開催し、南宇和高等学校農業科2年生20人が参加した。
- これは、将来の担い手候補となる地元高校生に対し、少しでも農業に興味を持ってもらおうと実施したもの。
- 当日は、直営ゆず園地での収穫体験や社長からの「地域と共に歩み発展したい」との経営理念や夢多き将来構想など熱意ある講話に、参加した生徒は、無限に広がる農業の魅力を感じていた。
- 当班は、今後も関係機関と連携し、新規就農者確保のため農業の魅力を発信する。



ゆず収穫を体験する高校生

南予地方局 産地戦略推進室

■河内晩柑における落下果実の有効活用について検証

- 愛南町では、河内晩柑の付加価値を高め農業者の所得向上を図るため、果汁搾汁等の加工施設整備を計画しているところ。
- そうしたなか、産地戦略推進室では、河内晩柑の品種特性である後期落果を逆手にとって、落下果実を原料として活用可能か検討するとともに、効率的な採取方法について調査するため、11月4日に防風ネットを敷設したモデル園地を設置した。
- 当日は、ネット敷設に係る作業時間を計測するとともに、JA、町の担当者と調査目的や調査スケジュール等を共有し、関係機関が一体となって検証していくことを確認。
- 今後、当室は2月下旬まで定期的に落下果実の量、採取時間、果実品質等を調査し、原料供給の可能性について検証することとしている。

※河内晩柑は11月以降に後期落果する性質を有することから、植物生育調整剤を散布し落果防止に努めているが、十分な効果が発揮されないことや冬季の強風等で依然として落果が発生している。



ネット敷設区の全景
(収穫時には株元側のネットを持ち上げ、通路中央に果実を集める)



露地区の全景 (11月24日)
(収穫時には1果ずつ集める)

■高校生による「アボカド栽培プロジェクト活動」をスタート！

- 産地戦略推進室は、アボカドの産地化と魅力発信を目的に、南宇和高等学校、NPO法人ハート in ハートなんぐん市場（理事長 吉田良香）及び愛南町との協働による「アボカド栽培プロジェクト活動」の取組をスタート。その第1弾として、11月13日に愛南町平山地区のアボカド園地で、生徒らを対象に苗の定植方法について実習した。
- 当日は、NPO法人が苗の定植時の留意事項について説明し実演を行った後、生徒と関係者が協力して苗を定植した。
- 愛南町の特産品といえば「河内晩柑」であるが、新たな果樹として「アボカド」への生徒の期待は大きく、取組への意欲を見せていた。
- 今後、当室はプロジェクト活動の取組が円滑に進み、町内外への認知度向上と地域の活性化につながるよう支援していく。



生徒による苗の定植の様子

■アボカド栽培講習会を開催

- 産地戦略推進室は11月19日、愛南町平山地区のアボカド園地で、NPO法人ハート in ハートなんぐん市場（理事長 吉田良香）と連携して栽培候補者等を対象とした「アボカド栽培講習会」を開催し、生産者ら計13人（うち栽培候補者4人、新規栽培者3人）が出席。
- この講習会は、昨年12月に開催した「アボカド栽培セミナー」の講演を聴いて興味を持った生産者に実際の園地を見てもらいながら、栽培の概要や外国産にはない国産アボカドの魅力（食味、大きさ、価格など）を理解してもらうために開催したもの。
- 当日は、当室から栽培技術の概要と昨年度実施した品種特性に関する実証結果を説明し、NPO法人からこれまで蓄積した栽培のノウハウや苦労話など生産者目線の栽培ポイントについて解説。
- 今回の講習会を通じて2人の生産者が試験栽培を希望していることから、関係機関と連携して出席者へのフォローアップを行い、新規栽培者の確保に取り組むこととしている。



栽培概要等について説明

南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

■八幡浜市高野地集落が農林水産祭むらづくり部門で農林水産大臣賞受賞

- 令和2年度豊かなむらづくり全国表彰事業で県代表として推薦した八幡浜市高野地集落（代表：西川雅文）は、農林水産祭のむらづくり部門で「農林水産大臣賞」を受賞した。
- 高野地集落は市街地から遠く、公共交通機関や店舗もなく、少子高齢化等の課題を抱えていたが、平成23年に地域活性化への共通目標を掲げ、地域住民のワークショップ等により、みかん収穫時の労働力確保のため旧小学校校舎をアルバイト宿舎として整備し、2カ月間でアルバイト20人、約900人役を確保した。また、経営の柱となる温州みかんの栽培講習の出席率は9割を超える他、新品種導入にも地域一丸となって取り組み、現在30歳代の農業後継者を11人確保している。
- さらに6次産業化に取り組む女性組織が、令和元年度の世界マーマレード大会で金賞受賞したことを機に、法人組織「企業組合高野地フルーツ倶楽部」の設立を指導し、加工品のブラッシュアップと販路拡大を行っている。
- 地域農業育成室は引き続き、地域の連帯感の醸成やコミュニティ機能の強化が図れるよう支援していく。



11月27日中国四国農政局で表彰



四季百果 天空の里 高野地！

■みかん収穫労働力、十分に確保!

- 八幡浜支局地域農業育成室は、新型コロナウイルス感染症の影響により県外アルバイト等の労働力確保が困難になると想定されたことから、西宇和みかん支援隊(構成員：当室、八幡浜市、西予市、伊方町、JAにしうわ)と連携して十分な労働力が確保できるよう、準備を進めてきた。
- 6月には、「西宇和版新型コロナウイルス感染予防に係るガイドライン」を策定するとともに、県・市・町の補助事業等を活用して、感染防止対策とアルバイト及びお手伝いプロジェクト有償ボランティアの確保等、幅広い労働力確保活動を強化した。
- また、八西地区青年農業者連絡協議会は、愛媛県青年農業者連絡協議会(会長：寺尾奏周)に労働力支援の協力要請を行い、県協会員23人の参加があった(11月10日：四国中央・西条青年計8人、17日：久万・今治青年計15人)。管内の青年会員を含む7農家が受入れ、収穫作業に取り組みながら交流を深めた。
- 八幡浜青年協議会の平田氏は、「県下の青年会員が協力に来てくれて、ありがたく思う。今後、他の地区で何かあれば、こちらも率先して支援していきたい。」と活動に対する思いを話した。
- 11月末現在、県外アルバイト369人、県内アルバイト登録者110人、お手伝いプロジェクトワーカー登録者454人、青年農業者23人、農業大学生46人、高校生8人と、例年以上の労働力が確保できた。
- 今後もガイドラインを遵守し、感染予防対策を徹底しながら労働力確保を支援する。



お手伝いワーカーによる収穫ボランティア



青年受入農家と久万青年会員

■ AI 選果機と家庭用選果機の省力化比較検証を実施

- 地域農業育成室は11月25日、スマート農業加速化プロジェクトの実証活動として、AI選果機による省力化の実証試験を実施し、関係機関・団体の関係者ら11人が参加した。
- 実証は、柑橘栽培において過重労働の大きな要因となっている、農家の庭先及び共同選果ラインでの人手による選果作業を削減するため実施。
- 当日は、温州みかん30コンテナについてAI選果機及び家庭用選果機で選果し、必要人員、選別時間、選果結果を比較するとともに、AI選果機の選別精度を調査。
- 今後は、複数回実施する検証作業のデータから、AI選果機による選別時間やコストの削減効果などを取りまとめ、西宇和地域のAI選果機整備について検討を進めていく。



AI 選果機による選果



家庭用選果機による選果

■集落営農体制強化に動き出す

- 大洲農業指導班は11月26日、県土地改良事業団体連合会（南予）、大洲市と連携し、農地中間管理機構関連農地整備事業に係る土壌調査を実施した。
- 野佐来（やさらい）地区は同事業を活用した基盤整備により集落での営農体制強化と法人化を目指しており、本調査は令和5年度の工事着手に向けた事業推進の一環で実施したもの。
- 集落リーダー立ち合いのもと、作土の厚さ、腐植、土性や硬度等の詳細な調査を行うとともに、地域の将来像や法人設立に向けた事務などを協議した。
- 当班は、集落や関係機関と連携して営農計画の策定を進め、地域の核となる集落営農法人設立を支援していく。



土壌調査する普及指導員

■みかん収穫における労働力不足の解消に向けて

○西予農業指導班は、西予市、JAひがしうわ、無茶々園等と連携し、みかん収穫時のお手伝いプロジェクトの取組について協議を進めている。

○11月10日、明浜町で柑橘農家を対象に同プロジェクトの説明会を開催したところ、労働力不足に悩む農家15人が参加。

○当日は、愛媛お手伝いプロジェクト本部の北川裕子氏（株）VOCEから、事業概要や受入農家の作業、登録書の記載方法などの説明があり、参加者の10戸程度がその場で登録書を記載・提出した。

○当班では、今後登録農家とワーカーのマッチングを進め、みかん収穫の労働力確保を図っていく。



プロジェクトの説明会

■地域食の見直しと免疫力アップ術を学ぶ

○西予農業指導班は11月6日、西予生活研究協議会（会長：山内美智恵）と「ときめき交流グリーンフェスタ」を開催し、会員や関係者ら34人が参加。

○食文化・料理研究家の中村和憲氏を講師に、午前中はリーダー17人がコロナ禍での「地域食」の見直しと免疫力アップのためのポイントを学び、4品の料理を実習した。

○料理は、感染症対策のため弁当容器に詰め、昼食交流として味わった。

○講演では、「コロナ禍で日常が変化する中で、地域食が優れていることを再確認すること、これまでとは異なるアプローチでの伝承、未来にどのような種をまけるかが鍵」といったアドバイスをいただいた。

○会員からは「何気なく口にしていた地域食は、必然的に免疫力を高めていたことに驚いた」「次世代に地域食を伝承し、残していきたい」といった声があがり、今後も地域食の確立と伝承に向け、地域へ広げる活動をしていく。



調理のポイントを学ぶ



地域食の魅力を再確認

南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

■フィンガーライムの産地化に向けて情報収集活動を実施

- 産地戦略推進室は 11 月 5 日、みかん研究所研究員 2 人と宮崎大学農学部を訪問し、フィンガーライムの産地化に向けた情報収集活動を実施した。
- 宮崎県門川町では、需要の高まりが期待できるフィンガーライムに着目し、新規導入品目として地域再生計画（地域創生推進交付金）の中で生産を推進しており、「門川町フィンガーライム研究会」が中心となり産地化に取り組んでいる。
- 当日は、同研究会の栽培技術指導とともに、フィンガーライムの育種に関する知見を有する國武久登教授から、門川町の産地化プロジェクトの進捗状況や品種及び栽培技術等についての説明を聞き、愛媛県の生産状況と合わせて意見交換を行った。
- 当室では、他産地における生産販売についての情報収集にも努めながら、周年安定生産のための技術確立や販路開拓を図り、フィンガーライムの産地化を推進する。

門川町フィンガーライム研究会の概要

| | |
|--------|---|
| 設立年 | 2018年2月 |
| 構成員 | 門川町、宮崎大学、生産者4名 |
| 栽培状況 | 40 a（露地・ハウス、約150株） |
| 目標作付面積 | 3ha（令和4年） |
| 活動内容 | 生産技術の確立 販路の確保 担い手の確保 休園地・廃園地の再利用 等 |

※提供資料及びHPより

■南予産直施設ネットワークの連携強化を図る

- 南予地方局と八幡浜支局の産地戦略推進室は 11 月 18 日、八幡浜支局で南予産直施設ネットワーク会議を開催し、12 施設が参加。
- 南予産直施設ネットワークは、南予地域の 33 産直施設で構成され、平成 21 年から研修会の開催やイベントへの出店等を通して相互の連携を図っている。
- 当日は、新型コロナウイルスによる産直市への影響等の報告に加えて、イベント出店時における衛生管理について周知するとともに、施設内でのコロナ対策や売上減少に歯止めをかける今後の対応等について情報を共有した。さらに、5月に新規オープンした「佐田岬はなはな」で、同施設の運営と取組について現地研修を行った。
- 産直施設においても、新たな生活様式での消費行動の変化に対応する必要があることから、両室では、コロナ対策を徹底した中での販売機会の創出や需要が伸びている EC サイトの活用等を通して、産直施設の運営改善を促し、地産地消の推進と農業者の所得確保に努める。



「佐田岬はなはな」の施設運営について研修



店内では特産の柑橘類や水産物の加工品等をメインに販売

農産園芸課 高度普及推進グループ

■リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用した病害虫の遠隔診断の手法を検討

- 高度普及推進グループは、11月27日、現地映像を送受信できる「リアルタイム農業普及指導ネットワーク」を活用した病害虫の遠隔診断の手法を確立するため、農林水産研究所等と現地映像の撮影法等に係る協議を開始した。
- 当グループでは、生産現場から送られた鮮明な映像を基に、研究機関等の専門家が高度な生育診断を行うことができる体制づくりに取り組んでおり、これまでに現地映像を送受信するシステムの骨格部分が完成。生産現場と県庁、研究機関等を映像で結んだシステムの試験運用に取り組んでいる。
- 当日は、農林水産研究所の担当者が高画質カメラの撮影性能等を検証した結果、人の目でははっきりと見えなかった1mm程度の病徴や微小昆虫も正確に確認できるほか、静止画では確認できなかった周辺部の状況等も確認ができるなど、同システムの活用により遠隔地からでもまるで現地に居るかのような精度の高い診断が実施できることを確認した。
- 当グループは今後、普及指導員向けの「遠隔診断マニュアル」を作成して遠隔診断の手法等を習得する研修会を開催する予定。



病害虫診断のための試験撮影



農林水産研究所での診断手法の協議

■県育成品種「紅プリンセス」の水田転換園での根域制限栽培技術実証モデル園の造成開始

- 高度普及推進グループが支援している「紅プリンセス」の水田転換園での根域制限栽培技術実証モデル園の設置に向けた園地造成が、11月上旬から松山市難波の水田転換園で始まった。
- 本実証は、今年度の「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用し地元農業法人が普及組織と新品種「紅プリンセス（愛媛果試第48号）」の品種特性に合った栽培技術を確立し、同時に高い地下水や排水不良の影響を受ける水田転換園での柑橘類の高品質生産技術を確立するもの。
- 現在、モデル園では従来よりも大型の栽培槽の設置を進めており、防根シート等により根域を地下水と遮断するとともに、余剰水の排水と土中への酸素供給を目的として2層に配置した通気性のパイプによって根域の拡大等を図っている。
- 当グループは、根域制限栽培槽の設置がほぼ完了する12月には普及指導員等を対象にした現地検討会を開催することとしており、今後は新規格のハウスの建設指導等を行いながら根域制限栽培技術等の確立を図る。



排水用パイプ（左）と防根シート（右）の設置

■県オリジナル品種「甘平」の裂果対策技術の確立に向けた根群調査について

- 高度普及推進グループは、県オリジナル品種「甘平」の裂果対策技術の確立を図るため、11月中旬から各普及拠点と連携し、各普及拠点で裂果の発生が極端に少ないとされる優良園地の土壌及び根群等を調査している。
- 調査では、根群の分布を的確に調査するために、表層から15 cmごとに水平に土壌を掘りながら根群の状況等を観察する新たな手法を用いている。
- これまでの調査では、吸水にかかわる小細根が土壌の深い所まで多く分布している園では裂果率が低く、逆に表層近くに集中して分布する園では裂果率が高くなる傾向を確認しており、裂果を抑えるためには急激な土壌水分の変化を抑えるための多かん水が必要であることに加え、園地の細根分布に応じたかん水等が必要なことを確認した。
- なお、12月には調査の中間結果を各普及拠点に説明するとともに、優良園地において現地説明会を開催することとしており、2月には各普及拠点からの調査報告を受け裂果対策技術の確立、普及を図る予定。



表層付近の小細根（点滴かん水園）



地下深く（15～50cm）の小細根（裂果率が低い園）

■さといも種芋の安定生産・保存技術を普及指導員野菜調査研究会で調査

- 高度普及推進グループは、さといもの優良種芋の安定供給を図るため、11月下旬から農林水産研究所及び四国中央市の種芋生産と貯蔵の現状について現地調査を行った。
- 農林水産研究所では、県オリジナル品種愛媛農試V2号（伊予美人）の原々種ほの収穫に立会い芋の形質等を調査。同所では掘取り後は子芋と孫芋に分割して庫内（常温）で貯蔵しており、例年数%の減量はあるものの貯蔵中に腐敗する芋はほとんどないこと等を確認した。
- また、県内最大の産地である四国中央市の現地調査では、県下各産地の普及指導員及びJA関係者と種芋確保の現状等を調査。同産地では栽培ほ場の中から疫病や乾腐病等の発生が少ないほ場を選定し、種芋をマルチ畝中で貯蔵し土入れ覆土を行っており、疫病等が蔓延しない限り種芋の更新は通常していないこと等を確認した。
- なお、四国中央市ではマルチ栽培が普及するまで、株を掘り上げて貯蔵していたことから現在、同様の貯蔵に取り組んでいる宇和島地域の貯蔵方法等についても意見交換が行われ、収穫作業時に芋を分割するなどして罹病の初期症状等を見極めてから採種することが必要であること等を確認した。
- 今後、当グループは、宇和島と今治地域でも種芋の生産実態を調査するとともに、種芋の貯蔵方法等に係る試験区を設置するなどして、優良種芋の生産技術の確立を図る。



原々種ほの調査（農林水産研究所）



四国中央市での掘取り調査

■県産いちごの収量アップに向け、新規格高設栽培システムが本領を發揮

- 高度普及推進グループは現在、通気性等に優れた調整ピートモスを主体とした培土を大容量で使用する新規格の高設栽培システムの実証ほを西条市と東温市に設置している。
- それぞれの実証区では、これまでに葉の大きさや草高、花数などが明らかに対照区より多いなど旺盛な生育が確認されており、培地量を多くするために深くしたベッドの底部からも多くの根が突出するなど、増量した培地全体に根が広く伸長していること等を確認している。
- また、新規格の栽培システムでは生育が旺盛になることから、通常栽培と同じかん水量では水分が不足すること等を確認しており、葉面積や根量の拡大等に見合う新たな養液管理等が必要であることを確認した。
- 当グループは、20日に全農えひめが西条市の実証ほで開催した現地講習会で、実証の状況や改造に係る経費及び収益の試算等を普及指導員やJA営農指導員に対して説明。実証した生産者からも「これまでにない明らかな差がある。」と高い評価が得られた。
- 当グループは、今後、生育に注視しながら同システムを活用した管理方法等について検討する。



現地講習会での新システム実証の説明（西条市）



新規格栽培システムの実証ほ

■しょうが栽培の課題解決へ！生産ほ場の収穫調査を実施

- 高度普及推進グループは、大洲農業指導班と大洲市のしょうが生産ほ場において収穫調査を実施した。
- 当グループは、本年度の「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用し、地元農業法人与自然と需要の高まっているしょうがの生産、貯蔵技術の確立を進めており、今年度は次年度の種芋の生産に取り組んでいる。
- 調査では、7月の集中豪雨によりほ場全体が滞水したものの、甚大な被害を及ぼす根茎腐敗病の発生は認められず、芋は1株当たり1～2kg程度まで太っていた。
- 収穫した芋は、事業により完成した、換気しながらも0.2℃の範囲で管理できる専用の貯蔵施設に搬入し、来年3月に定植する種芋として保存するとともに、しょうがの需要期で高単価で販売できる7月まで貯蔵試験を行う予定。
- 当グループは今後、県外産地の仲卸業者等とも連携しながら技術を確立するとともに、栽培面積の拡大及び技術普及を図る。



普及拠点との収穫調査（大洲市）



完成したしょうが貯蔵庫での実証の打合せ

■若手職員等を対象に「ひめの凩」の収量調査を実施

- 高度普及推進グループは、11月10日、全農えひめ種子センターで、各普及拠点の若手普及指導員等と各拠点の実証ほ場で収穫した「ひめの凩」の収量及び食味等を調査した。
- 本年度の普及指導員作物調査研究会では、各産地の「ひめの凩」の収量と品質の関連性等を明らかにすることとしており、若手職員が実証ほを設置し調査してきた。
- これまでの調査では、田植えの早い地域においてはタンパク含有率が低くなり、食味値が高くなる傾向が見られており、篩目を大きくすることによって、食味値が向上していることから、粒厚を厚くするため登熟後半までの適切な水管理を行うとともに、早すぎない適期の刈取りが重要であることが明らかになっている。
- なお、詳細な調査結果は若手職員個々が分析し12月開催の調査研究会で報告する予定。当グループも「ひめの凩」の施肥試験の成績や、県内外の食味コンクール等で高い評価を受けたほ場の生産技術等についても報告することとしている。



調査方法を説明する様子



試験器具の使用方を説明する様子

農産園芸課 企画調整グループ

■新規採用農業職職員を対象に農業大学校派遣研修を実施

- 企画調整グループは、新規採用農業職職員 11 人に対して、農業大学校派遣研修（後期）を実施した。
- 同研修は、普及職務の理解を深めるとともに、農業職としての実践的な技術や知識を身につけ、普及指導活動等の業務を円滑に推進するために実施したもの。
- 5 日間の研修では、県庁各課および農林水産研究所に在籍している農業職の若手先輩職員と、農業職に求められる資質等について意見交換等を行った。
- また、講義では農林水産研究所の研究者から病害虫診断方法等を研修するとともに、農業職 OB を講師として、本県農業行政の歴史等を学ぶなど、農業職として求められる姿勢や心構え等について理解を深めた。



県庁各課、試験研究機関の先輩職員との意見交換



病害虫診断方法実習

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

| 文中略称 | 正式機関名 | 所在地および連絡先 |
|------|---|--|
| 東予 | 東予地方局産業経済部 産業振興課 | 西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056 |
| 四国中央 | 東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班 | 四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697 |
| 今治 | 東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室 | 今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724 |
| しまなみ | 東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班 | 今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912 |
| 中予 | 中予地方局産業経済部 産業振興課 | 松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395 |
| 久万高原 | 中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班 | 上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592 |
| 伊予 | 中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班 | 伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313 |
| 南予 | 南予地方局産業経済部 産業振興課 | 宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881 |
| 鬼北 | 南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班 | 北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152 |
| 愛南 | 南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班 | 南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319 |
| 八幡浜 | 南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室 | 八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853 |
| 大洲 | 南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班 | 大洲市東大洲 174 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284 |
| 西予 | 南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班 | 西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543 |